

コロナ禍における学生支援に関するエスノグラフィ

——会津大学教職員による学生への食料品支援を例に——

池本 淳一

はじめに—本論の目的と方法

2020年1月30日、世界保健機構が緊急事態を宣言してから早一年、「新しい生活様式」もすでに日常となった。筆者の専門は地域社会学、観光研究であるが、この一年は調査に出るのもままならず、ステイ・ラボラトリーで地域史に勤しもうにも、「誘客」「交流人口」「観光開発」等々の文字が躍る資料に目を通すのもまた気が滅入る作業であった。しかしこの間、オンライン配信やプログラミングの勉強を始めたことで、「ICTと観光・地域」という新しいテーマを見つけることができ、それなりに充実した研究生生活を送ることができた。

教育面を振り返れば、ここ会津大学では都市部の大学と比較すればコロナ禍の影響は少なかったように思われる。例えば会津大学でも遠隔授業が実施されたものの、コンピュータの専門大学である本学では学生も教員も一定以上のICTスキルを身につけており、オンライン講義には比較的スムーズに対応できた。さらに本学のある会津若松市において初のコロナ感染者が出たのは8月以降であり、2021年3月15日現在でも感染者数は合計173名と¹⁾、比較的感染者が少ない地域であった。このような感染状況を踏まえ、本学では第一学期（本学はクォーター制であり、第一、第二学期がいわゆる前期、第三、四学期が後期である）が始まった当初は原則的に遠隔授業を実施したものの、6月からは遠隔授業が困難な講義に関しては対面での授業が可能となった。続く第二、三学期は遠隔か対面のどちらか、あるいは併用による授業が実施され、第四学期は遠隔授業も可としつつも、対面での授業実施が推奨された²⁾。

一方、学生の生活面においては、本学でも多くの問題が生じた。例えば4月以降、アルバイトの急減や突然の自粛生活により、経済的・精神的な困難に直面する学生も現れたため、そのような学生へのサポートが急務となった。そこで本学では教職員による様々な学生支援が実施されたが、本論で取り上げる学生への食料品支援もその一つである。

本論の目的は、その経緯とノウハウをエスノグラフィ³⁾の形式で書き残すことで、コロナ禍における学生支援の一事例、そして今後、同様の危機に直面したさいの参考事例を提供することである。具体的には、筆者が主に関わった、2020年4月末から7月末までの約3か月間に及ぶ食料品支援の経緯と内容を中心に記述していく。

また表1は会津大学公式ウェブサイトの「お知らせ」に掲載された寄付に関する記事を一覧表に、表2は本論

¹⁾ 会津若松市公式ホームページ「市の新型コロナウイルス感染症の発生状況について」
<https://www.city.aizuwakamatsu.fukushima.jp/docs/2020080900012/> 2021年3月15日閲覧

²⁾ 会津大学公式ウェブサイト「2020年度第4学期における授業実施方法について」
<https://www.u-aizu.ac.jp/information/2020Q4class.html> 2021年3月15日閲覧

³⁾ フィールドノートや資料を用いて、ある時代・場所の出来事を描く社会学や文化人類学で使用される研究手法。また研究者自身が体験・参加した出来事を描くものはしばしばオートエスノグラフィとも呼ばれるが、本論は今後の参考事例を残すことを主な目的としているために——もちろん可能な限り筆者自身のバイアスや研究視点を反省しつつも——、客観性を重視する「エスノグラフィ」として描くこととした。

で取り上げる学生支援（ただし授業内での支援は除く）を年表風にまとめたものである。なお本学では寄付をいただいたさい、寄付の公表の可否を確認させていただいているが、公表を辞退された個人・企業・団体様の寄付は記事となっていないため、実際にはこの表1よりも多くの寄付をいただいている。同様に、公表を辞退された皆様からの寄付に関しては、本論中でも言及を控えさせていただいた。

ただし学生支援のエピソードとして外せないと思われた寄付に関しては、改めて公表の可否を確認した上で、許可をいただけた寄付については言及させていただいた。これら公表を辞退された皆様の陰ながらのご支援も、より充実した学生支援を行う上で非常に大きな力となった。

なお会津大学には四年制のコンピュータ理工学部と二年制の短期大学部があり、学生支援、特に寄付していただいた食料品等の配布も両学部でそれぞれ実施された。しかし短期大学部での取り組みには筆者は関わっていなかったため、本論ではコンピュータ理工学部での学生支援や食料品支援に限定して記述した。

また本論で使用した主な資料は、会津大学公式ウェブサイト（特に「お知らせ」に掲載されたコロナ関係及び寄付についての記事）、筆者の日記、支援活動に伴い大量にやり取りされたメール、筆者が撮影した写真、事務局（学生課・企画連携課）提供の写真、学生課提供の各種資料、配布物、関係者への聞き取りなどである。また記録としての読みやすさと直感的な理解も重要と考え、本論ではなるべく多くの写真を掲載することとした。

表1 会津大学公式ウェブサイト掲載の寄付一覧（敬称略）⁴⁾

受取日	団体名・社名	寄付の内容
2020年		
4月30日	株式会社 河京	喜多方ラーメン等
4月30日	株式会社 石井商店 株式会社 リオン・ドールコーポレーション	白米 500kg
5月26日	喜多方ロータリークラブ	学生生活支援寄附金
5月26日	大連東軟信息学院	マスク 1,000枚
5月27日	会津よつば農業協同組合	会津産米（いなわしろ天のつぶ）1,000kg
5月29日	猪苗代ロータリークラブ	外国人留学生へ会津産米 30kg 入り 8袋
6月2日	さんべ農園	米 100kg（学食にて学生に提供）
6月3日	会津産学懇話会	寄附金（外国人留学生支援）
6月12日	福島発電株式会社	学生生活支援寄附金
6月16日	東洋システム株式会社（いわき市）	アルファ米 900食分、500ml 飲料水 648本等
6月23日	会津土建株式会社	学生生活支援寄附金
7月1日	会津産学懇話会	学生生活支援寄附金
7月2日	湯川村	湯川産米 120kg
7月21日	社会福祉法人 会津若松市社会福祉協議会	学生生活支援寄附金
2021年		
1月27日	会津産学懇話会	寄附金（新入生の生活支援のため）

⁴⁾ 会津大学公式ウェブサイト「お知らせ」掲載の各記事 <https://www.u-aizu.ac.jp/information/news/>
2021年3月9日閲覧・作成（2021年4月1日閲覧・修正）

表 2 会津大学の学内における学生支援（敬称略）

2020 年	
4月中旬～	PC-AIDによる学生へのPC貸し出し
4月28日	ASAP 第1弾（樗での白米配布）予約開始。 ASAP 第2弾のための保存食寄付を全教職員にメールで呼掛け。これを機に筆者が支援に参入
4月30日	株式会社河京からのラーメン・チャーシュー等の搬入 株式会社リオン・ドールコーポレーション・株式会社石井商店からの白米の搬入 ASAP 第1弾、配布開始（5月1日、配布完了）
5月1日	ASAP 第2弾（食堂での食料品配布）の会場設営
5月2日	ASAP 第2弾、実施
5月2日	学生の経済及び生活状況を尋ねる Web アンケート開始 予約システム製作開始（5月8日以降は修学支援室に製作・運用体制が移行）
5月8日	学生支援ワーキンググループ結成
5月18日	ホッとライス、職員・学生支援WGで搬入
5月21日	予約システム完成
5月22日	ホッとライス予約開始（5月23日夕方、予約受付を停止）
5月25日	ホッとライス配布開始（6月5日、配布完了）
5月27日	会津よつば農業協同組合からの「いなわしろ天のつぶ」、職員・学生支援WGで搬入
6月11日	天のつぶ予約開始（6月14日、予約上限に達して受付終了）
6月15日	天のつぶ配布開始（6月30日、配布完了）
6月16日	東洋システム株式会社からのアルファ米等、職員・学生支援WGで搬入
7月2日	湯川村からの湯川米、職員で搬入 10時より職員・学生支援WGでアルファ米のセッティング アルファ米の予約開始、昼過ぎに予約上限100名に達して受付終了
7月3日	アルファ米、配布開始（7月16日、配布完了）
7月27日	湯川米等予約開始
7月28日	湯川米等配布開始（8月21日、配布完了）
2021 年	
3月1日	会津地方労働組合総連合、生活協同組合コープあいづから米・カップ麺他の寄付 学生へ配布告知（予約不要）
3月2日	学生課前にて米・カップ麺他の配布（当日配布完了）

食料品配布以前の学生支援と食堂

会津大学では3月31日に開催された全教員集会での意見交換を経て、開講は最大2週間、延期可能としつつもオンライン授業の準備が整った科目から順次開講、という基本方針が決定された。筆者の所属する文化研究センターにおいても、4月以降、授業運営に関するミーティングが重ねられ、コロナ禍での授業が始まった。たとえば文化研究センター所属の各教員は、例年、第一学期に主に新一年生を対象に、論理的な思考法と学術的な文章作成法を学ぶ基本推奨科目「アカデミックスキル1」を担当している。しかし新一年生の中にはパソコンに不慣れで、今後のオンライン講義に対応できない学生もいることが危惧された。そこでアカデミックスキル1の開講日は延期せず、第一回目の授業でZOOMのダウンロードや操作の方法を教えることで、コロナ禍でもっとも重要となるアカデミックスキルを身につけさせた。

加えて、文化研究センター所属の各教員も授業を通じた学生支援を試みていた。たとえば体育科目では、ソーシャルディスタンスを十分保ちつつ、校内での散策やグラウンドでの軽運動を実施し、新入生が安全に屋外に出たり、お互いに知り合えたりする機会を提供することで、学生の心身のケアにも努めていた（詳細は本号掲載の中澤・沖[2021]、沖・中澤[2021]を参照のこと）。

筆者も2020年度から、『人生100年時代』に向けた健康的なカラダづくり』及び「社会調査とICTによる地域サポートプロジェクト」という2つの課外プロジェクト（教員と学生が共同して一つのプロジェクトを実施する課外活動的な授業）を立ち上げたが、これらの授業でも遠隔授業に対応しつつ、学生支援を意識した取り組みを行った。

たとえば前者では、中国武術や格闘技をベースにした体力づくりプログラムをZOOMで配信したが、授業後にZOOMで学生同士が自由に会話できる時間を設けた。さらにこの授業では履修外での追加募集も行うことで、より多くの学生に、自粛生活で不足しがちな運動とコミュニケーションを補う機会を提供しようと試みた（図1）。また後者は元々はICTを用いたまちづくりや観光に関するプロジェクトであったが、自粛で活動休止や新入生不足に陥った学内サークルのために、サークルのウェブサイト作成やオンラインサークル合同説明会の開催などを当面の企画内容とすることにした。

もっとも、前者は履修外での参加学生は2名のみであり、後者は5月にはサークル活動が制限付きながら解禁となったため企画中止となった。このように両プロジェクトでの学生支援は不首尾に終わったものの、これらは筆者が学生支援に関心を持つきっかけとなるものであった。

またオンラインでの学習環境を整えるための、全教員による学生支援も実施された。会津大学では24時間使用可能なコンピュータの演習室があるため、一部の学生はパソコンを所有していなかった。また当時、オンライン講義に適したスペックかつ手頃な価格のノートパソコンやタブレットは品薄状態にあり、さらに研究室配属前の1、2年生には、研究室経由でノートパソコン等を貸し出すことも困難であった。そこで各研究室が持つノートパソコンにセキュリティアップデートなどを施し、安全に貸し出せる状態にしたうえで、学生課経由で希望する学生へ貸し出す「PC-AID」活動が、有志教員を中心に進められた。なお最終的にこのPC-AIDの貸し出しを受けた学生は55名であった。

あいにく筆者の研究室には貸し出せる機器がなかったため、この活動には直接かかわることはなかったものの、この教員による学生支援活動は、後の学生支援ワーキンググループ結成のアイデアへとつながるものであった。

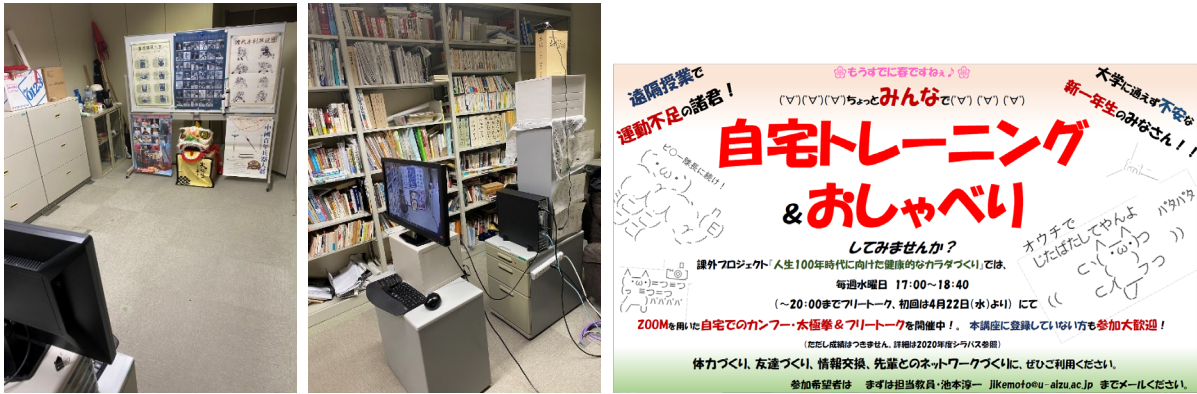


図 1 左：配信用スペースを確保。武術ポスターと中国獅子舞でスタジオの雰囲気づくり
 中央：配信セット。斜め上から筆者の全身が映せるように、棚と本でタワーを作ってカメラをセット
 右：履修外での追加募集のポスター。気分が晴れるように、明るく朗らかなコンセプトで作成

さらに新学期以降、学内の食堂も学年によって使用可能な時間を制限する、座席数を少なくする、営業時間を短縮する、などのコロナ対策を講じた上で営業が続けられていた。たとえば図2は感染予防のポスター、図3は食堂に続く階段ホールと食堂の様子であるが、これらの図からはユーモアを忘れずに、工夫をこらした感染予防対策が講じられていたことがわかるだろう。このように新学期以降も十分な感染症対策を講じつつ食堂が営業され続けたことが、後に食堂を食料品支援の会場とすることを可能にさせたと言えるだろう。



図 2 感染予防のポスター

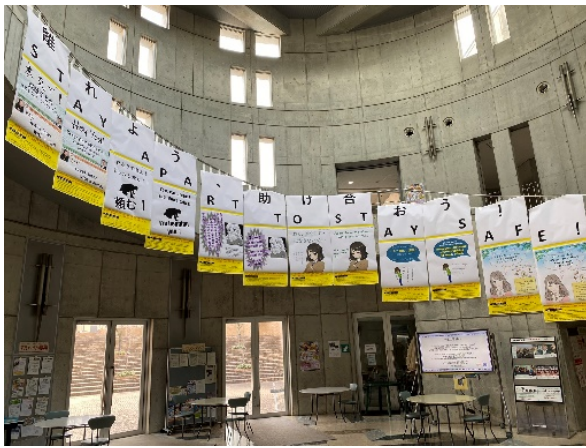


図 3 左：階段ホールにつり下げられた特大ポスター 右：座席数を半分にした食堂の机

ASAP 第一弾及び ASAP 第二弾までの経緯

このように本学がコロナ禍での教育を模索していた一方で、ここ会津若松市でもアルバイトが激減し、学生の経済環境は悪化の一途をたどっていった。しかし当時はまだ政府による学生給付金も大学による経済支援も実施前であり、また4月27日には、ゴールデンウィーク中の帰省を含む不急不要の外出を自粛するよう呼びかけるメールが全学生に送信されたため、学生の経済状況や心身の健康状態が懸念された。そこでゴールデンウィーク中、十分な食事を摂り、少しでも明るく過ごしてもらおうと計画されたのが ASAP (Aizu Student Aid Project) 第一弾及び第二弾である。

ASAP 第一弾は、地元の大手スーパーである株式会社リオン・ドールコーポレーション様と会津米の専門店である株式会社石井商店様から寄付していただいた白米500g (5kg 入り 100 袋) の配布である。両社から寄付をいただけることとなった本学では、4月27日に学内の情報システムに受け取り希望者を募る告知を投稿し、翌朝にその内容が日本人及び永住者の学生へメールで送信された⁵⁾。この白米は4月30日の昼頃、本学に届けられ、同日の15時から学生に配布された(図4)。この第一弾では、合計で46名の学生に白米5kg入りの米袋を一袋ずつ配布することができた。

なお第一弾では「レストラン檣」(以下、檣)のテーブルの上に米袋を置いておき、学生は学生課から指定された時間帯に檣を訪れ、自分で米袋を持っていくという配布方法がとられた(図5)。ちなみに檣は学生課事務室と同じ2階フロアにあり、普段は立食パーティーなどを行うレストランであるが、コロナの感染拡大以降は営業を停止しており、現在は学生課事務室の密を防ぐため、一部のデスクをこの檣に移動して、臨時の事務室として使用されている。

⁵⁾ 会津大学では学生への情報は Campus Square などの学内の情報システムへアップロードされた後、その内容が個別に学生にメールされるようになっていたが、夜に投稿した場合は翌朝にメールが届けられる設定となっていた。これら情報システムの投稿を見つけて事前に予約をした学生も少数ながらいたようであるが、大部分の学生は配信されたメールを見て予約をおこなっていたため、本論では予約開始日は学生に個別メールが送信された日時とした。



図 4 株式会社石井商店様と株式会社リオンドール・コーポレーション様からの白米 500 kg とその搬入の様子
 写真出典：会津大学公式ウェブサイト「株式会社石井商店様と株式会社リオンドール・コーポレーション様による会津大学生への米の支援について」

<https://www.u-aizu.ac.jp/information/post-20171189.html> 2021年3月3日閲覧



図 5 ASAP 第一弾 ご飯のお供にカレーや漬物などもいっしょに配布した 写真提供：事務局

この第一弾と並行して計画・実施されたのが、ASAP 第二弾となる、食堂での食料品支援である。4月28日、宮崎敏明・会津大学学長から ASAP 第二弾「ゴールデンウィーク・ステイホーム支援」として、フリーズドライ、レトルト食品、インスタント食品、米、乾麺などの保存に適した食料品の寄付を募るメールが全教職員に送信されると、その日のうちに、学内各所に設置された「ASAP 寄付ボックス」に白米やカップラーメン、レトルトカレーなどの品が続々と届けられていった。

筆者もこのメールを見た後、筆者の調査フィールドである喜多方の方々からも何かご支援をいただけないかと考え、さっそく会津喜多方商工会議所の会頭を務める株式会社河京の佐藤富次郎様に相談させていただいた。これが筆者が以降の食料品支援に関わるようになったきっかけであるが、相談の結果、株式会社河京様から寄付をいただけることとなり、二日後の4月30日10時頃、生ラーメン・スープ約200食、チャーシュー等が佐藤社長自らが運転される車で本学に寄付された（図6）。こうして教職員と地元企業の皆様のおかげで、配布を前に十分な食料品を準備することが出来た（図7）。



図 6 株式会社河京様からの寄付とその搬入の様子

写真出典：会津大学公式ウェブサイト「株式会社河京様による会津大学生へのラーメン等の支援について」

<https://www.u-aizu.ac.jp/information/post-20171188.html> 2021年3月3日閲覧



図 7 寄付された食料品は、学生課事務室の奥の部屋に安置 写真提供：事務局

なお5月1日には会津大学公式ウェブサイトに、学生への支援金の受付先として「会津大学学生生活支援寄附金」についての説明が掲載され、同時に以後の食料品の寄付については、コロナ対策・リモート授業の準備等で非常に多忙となり、仕分けなどに人手が割けない状況にあるため、企業・団体による大口の寄付のみに限定させていただく旨も説明された⁶⁾。

また各方面から寄付をいただくようになったのもこの頃である。たとえば4月30日には、当時の喜多方ロータリークラブ会長・高橋周様から、筆者にクラブからの食料品支援の申し出をいただいた。しかしすでに上記の寄付の方針も固まりつつあったため、この申し出は辞退させていただくこととなったが、これがご縁となり、5月28日に喜多方ロータリークラブ様から会津大学学生生活支援寄附金へ寄附金が贈られた。

加えて、学内での配布ではなく、学生に直接、食料品をご支援していただいた店舗や企業もあった。例えば本田屋本店有限会社様には、会津大学生を対象に白米（本田屋継承米）と漬物、御菓子のセットを本田屋本店にて配布していただけることとなり、学生課から本学学生にメールを通じてその申込方法などを告知した。この他にも寄付の公表を辞退されたために言及は控えさせていただいているものの、いくつかの企業・店舗様から同様のご支援をいただいた。

⁶⁾ 会津大学公式ウェブサイト「新型コロナウイルスの感染拡大に伴い生活に不安を抱える学生の支援について（お願い）」 <https://www.u-aizu.ac.jp/information/post-20171187.html> 2021年3月15日閲覧

会場設置

こうして十分な食料品を集めることが出来たが、次の問題はこれらをどのように配布するかであった。当初は職員が食料品を一人分ずつ袋に小分けして学生に手渡すことも考えられていたそうであるが、筆者はすでにコロナ対応で多忙を極める職員にその余力はないように思われた。またどうせ配布するなら、学生の気分転換となるようなある種の「イベント」とするほうが良いと考えた。

会場のセッティングは配布前日の5月1日の14時から一時間程度行われたが、図8はその当日の朝に金子恵美子教授（学生部長）に筆者が送信したword原稿の一部（全4項）である。この原稿からもうかがえるように、食料品の配布はテーマパークのアトラクション待ちの行列や「つかみ取り大会」をイメージして設計された。

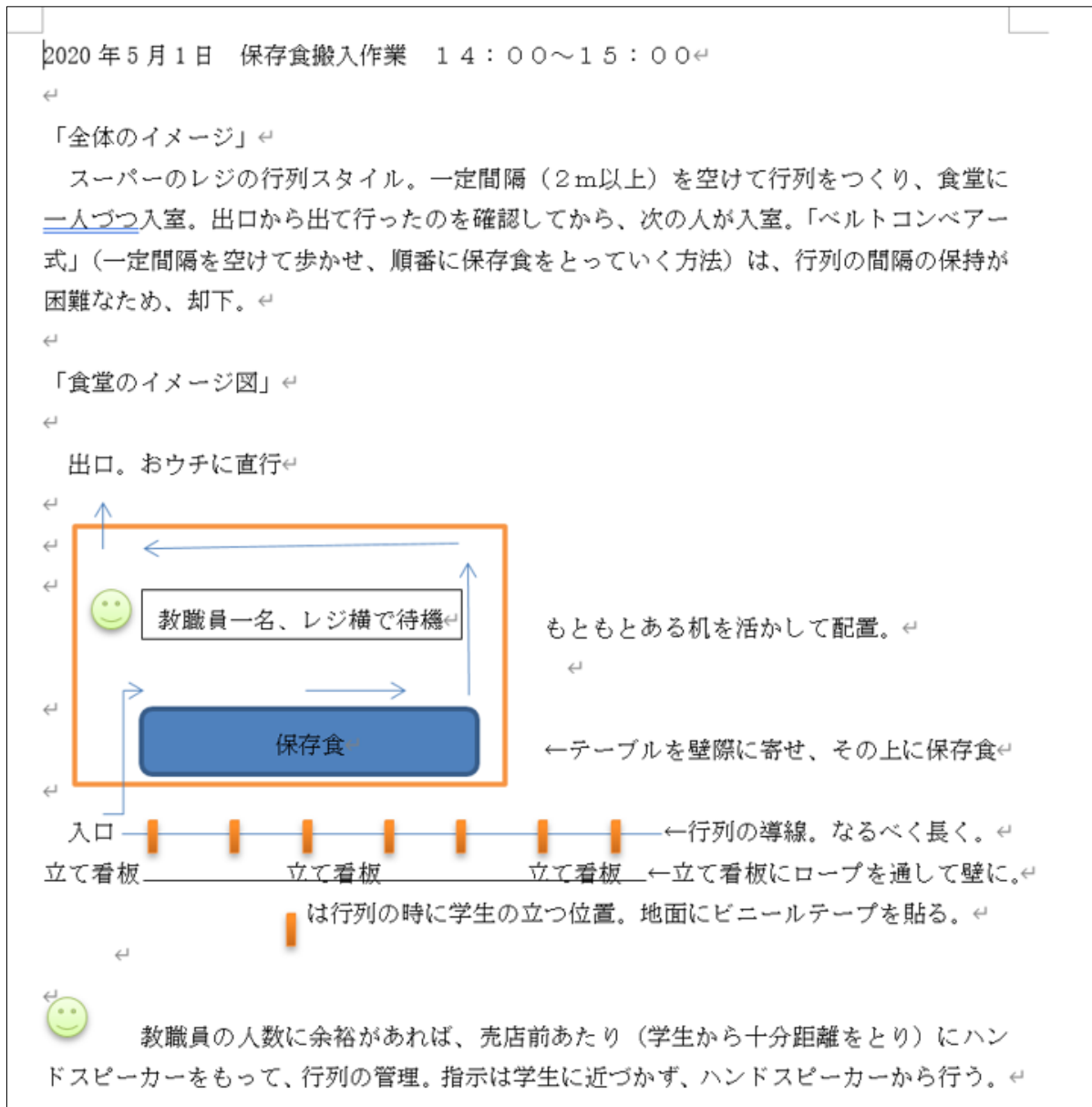


図 8 食料品配布の設置イメージ

実際の会場設営では、食堂の食事スペースを入り口から見て手前と奥の半分に分け、入り口側に食品が陳列された。またテーブルとテーブルの間にイスを置いて通路を塞ぐことで、入口から出口まで一直線の導線を作り、誘導や指示は矢印の張り紙や説明書きで行った(図9~10)。

図11は当日、会場で張りだされた、会津の「什の掟」をもじった「食品配布 什の掟」である。この日本語の原案は池本が作成し、デザイン・レイアウト及び英訳は学生課が行った。また本学には中国人留学生も多いことから中国語版も作成した。図12~17は、陳列された食料品の数々であるが、これだけバラエティ豊かな食品が揃えられたのも、教職員、企業、団体のご支援のお陰であった。



図9 矢印で導線を指示

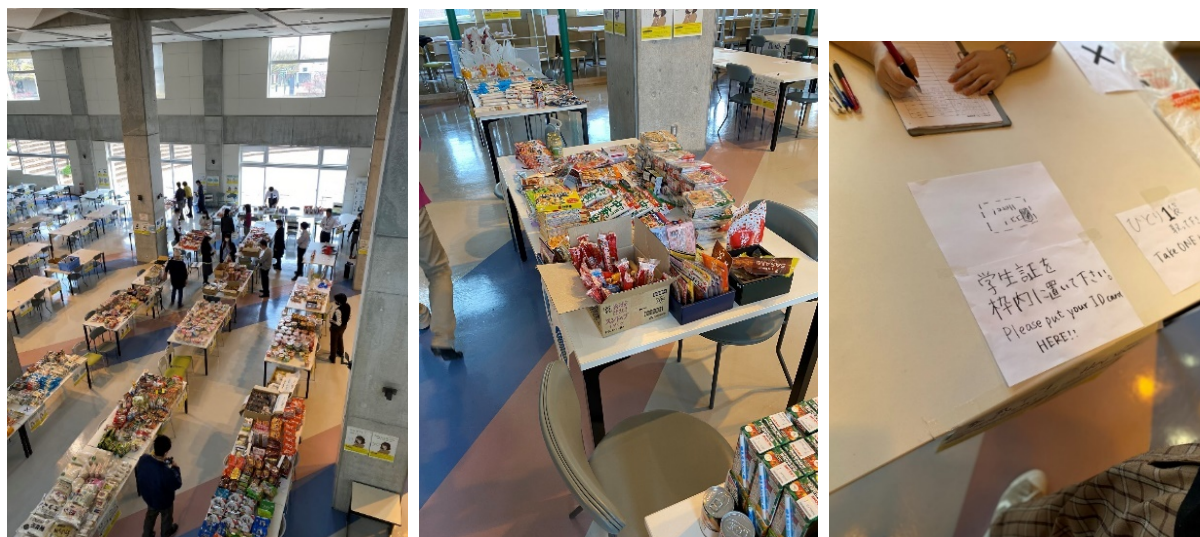


図10 左・中央：テーブルの間にはイスを設置

右：学生本人に学生証を机に置いてもらうことで、受付係が学生証に触れないように工夫

会津大学

じゅう おきて

食品配布 什の掟

- 一、 一度手にとったものは、必ずビニール袋に入れて、絶対に戻してはなりません。
- 二、 一種類のものを取りすぎはなりません。個数制限のあるもの（缶詰や喜多方ラーメンなど）は、決められた個数だけ取り、取りすぎはなりません。
- 三、 取り忘れたものがあったら、引き返してはなりません。
- 四、 長居してはなりません（目安は一人2分です）
- 五、 ならぬものはなりません、それはさておき、おうちでいっぱい食べてね！

UoA Rules for Food Distribution

- (1) Once you have picked up an item, be sure to put it in your bag and never ever return it to the table.
- (2) Do not pick too many items from the same table. If there is a limit to the number of items that you can take, (e.g. canned goods, Kitakata ramen), you can only take that much.
- (3) Even if you have forgotten to take some items, do not go back.
- (4) Do not stay in the room too long (2 minutes max).
- (5) You must strictly follow these rules ... but then, let's go home and enjoy eating!

会津大学

食品分配 規則

- ① 请您将触摸到的食品直接放到您的袋子里，绝对不可以放回原处或者您袋子以外的地方。
- ② 请您不要只多取同类食品。此外，有数量限定的食品（例如 罐头、喜多方拉面等等）请您按照规定的数量拿取。
- ③ 如果您有想取却又忘记取的食品，千万不要返回拿取，请您继续前进。
- ④ 请您停留时间不要过长（平均每人 2 分钟左右）。
- ⑤ 请您务必遵守以上规则，感谢您对预防工作的配合。

最后祝您身体倍儿棒，吃嘛嘛香。为了健康我们一起加油吧。

図 11 食品配布 什の掟 日本語版、英語版、中国語版



図 12 インスタント麺、缶詰は大人気ですぐになくなった



図 13 お米も大量に設置



図 14 インスタントの味噌汁、牛丼、カレー。「ご飯のお供」も充実のラインナップ



図 15 ソーメン、パスタ、小麦粉 お米以外の主食も充実



図 16 喜多方名物 喜多方ラーメン、チャーシュー、たまりせんべえ

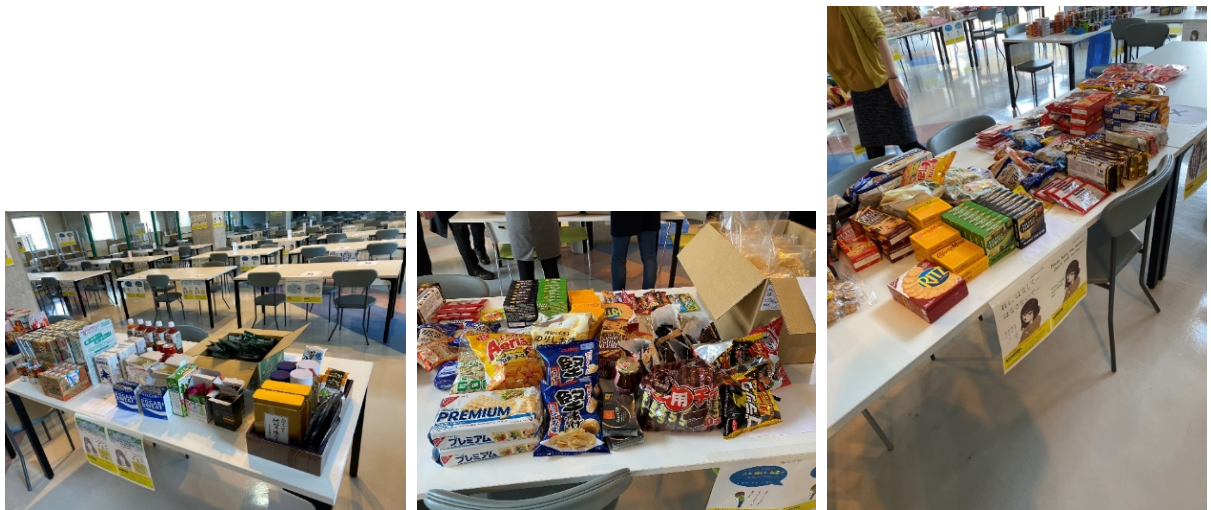


図 17 お茶、ジュース、お菓子 心の栄養も大事

ASAP 第二弾、食料品配布当日

5月2日、これら十分な準備のもと、ASAP 第二弾の食料品支援が実施された。配布は10時からであったが、開場前からすでに多くの学生が詰めかけていた。当日は朝から気温が高く熱中症の危険性もあったため、先に会場入りしていた職員の機転により、食堂の外周から食堂奥のスペースに待機場所を変更したという。筆者が会場に着いたときには奥のスペースに多くの学生が着席していたが、このエリアにも机とイスを用いて行列の導線をセッティングした。

なお開場前には学生は間隔を空けてイスに腰かけていたため、十分なソーシャルディスタンスを保っていた。しかし開場後、列が動き出すにつれて立って待つようになり、徐々に学生同士の間隔も短くなっていった。そのためイスに座って待つように指示し、以後は終了まで十分な間隔を維持することができた(図18)。また待機スペースに入りきれない学生には会場外に列を作って待ってもらったが、当日は予想以上の長蛇の列が出来たため、教職員が適宜、列の間を空けて待つように指示することで対応した(図19)。

このように会場前から多数の学生が集まってきたため、予定よりやや早い9時51分に食料品の配布を開始することになった。会場では食料品配布のスタート地点でビニール袋が手渡され、それに好きなだけ食料品を「詰

め放題」で持ち帰ってもらったが、米袋はビニール袋の分とは別に持ち帰ってもらった（図20）。

開場後は特に問題なく進んでいったものの、続々と学生が来場したために瞬く間に食料品が減少していった（図21～22）。このままでは食料品が足りなくなることが危惧されたため、10時10分、筆者が株式会社河京の佐藤社長に電話で追加のご支援をお願いしたところ、快くお引き受けいただいた。そして11時56分、生ラーメン・スープ・厚切りチャーシューがそれぞれ約800食、半生うどん120袋、その他多種多様な菓子類など、大量の追加支援を載せた、佐藤社長が運転する株式会社河京のワゴン車が本学に到着、この追加支援のお陰で最後まで学生に食料品を手渡せる見通しがついた（図23～24）。



図18 左：開場前、中央：開始直後、右：着席して待つ学生



図19 左：テープで位置を指定 中央：イスで距離を保つ

右：最後尾の看板を持つ職員。列は食堂への入場口からキャンパスの中庭を囲むように伸びていったが、開場前にはすでに研究棟近くにまで達していた。10時40分頃に筆者が確認しに行くと、行列はさらに体育館の側面にまで伸びていた。



図 20 食料品と白米をゲットし満面の笑みの学生
 ちなみに彼は一番乗りの学生で、朝6時からギターを弾いて待っていたという

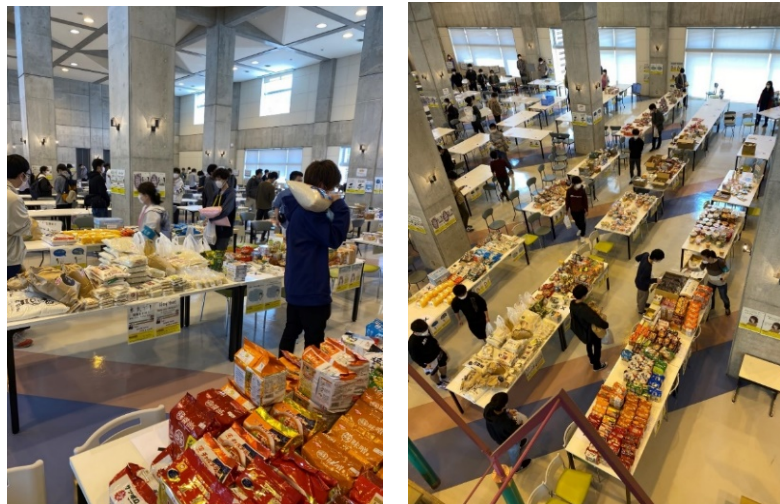


図 21 食品配布の様子



図 22 みるみる食糧が減っていく。個数制限もさらに厳しくして対処するも間に合わず



図 23 希望の光、河京ワゴン到着。豊富な追加支援の食品たち



図 24 スタート地点でラーメン、チャーシューを配布

その後、14時過ぎにはほとんどの食品がなくなり、14時半頃には最後の学生にも——チャーシューのみであったが——食料品を配布することが出来、これにて配布は終了となった。14時30分過ぎから撤収作業を開始、15時頃には撤収作業を完了させて、長い一日が終わった。なお、当日の来場者数は296名であった。

アンケート調査

これらの ASAP の外にも、学生の窮状を明らかにし、緊急のサポートが必要な学生をピックアップするために、学生の経済及び生活状況を尋ねる Web アンケートが5月2日～10日まで、SurveyMonkey を使って実施された。

なおこのアンケートには筆者も作成段階から関わり、調査後の分析も行った。しかしこのアンケートはあくまでも学生支援のために実施されたものであり、回答率が低下するのを懸念して研究使用の可否については回答者に尋ねていない。それゆえデータの公表は控えさせていただいたが、この調査結果からは、食料品支援の効果やニーズについて把握することができた。

ホッとライス配布のためのシステム構築と教員ボランティアの結成

ASAP 終了後、続いて福島県の災害対策課から、賞味期限が近付いていた、災害用米食セット「こまったときのホッと!ライス」(湯煎や電子レンジでの調理が可能な保存米。以下、「ホッとライス」と表記)を多数、会津大学に寄付していただけることとなった。ASAP 第一弾では「櫛」に準備した米袋を学生に取りに来てもらったが、少人数だったため密になることもなく、職員が一人一人に受け取りの時間を指定することもできた。しかし「ホッとライス」は配布数が膨大になることが予想され、学生が殺到して密になったり、受け取り時間の割り振りに膨大な労力がかかたりする恐れがあった。

そこで5月3日、筆者の良く知る学部生にウェブサイトでの予約システムの作成をお願いし、5月8日からはコロナ禍での修学支援の一環として、修学支援室の職員及びTAにこの予約システムの製作及び運営を担当してもらうこととなった。

図 25 はその予約システムのウェブサイトである。このシステムは Google の各サービス (Google サイト、Google カレンダー、Google フォーム、Google Apps Script) 及び SendGrid を用いて作成された。このウェブサイト内のカレンダーにはすでに予約が入った時間帯が掲示されており、本学学生が「予約フォーム」から予約の入っていない日時 (9時から16時40分までの20分刻みで設定) を選択して送信すると、学内メールアドレスに予約確認のメールが届いて予約が完了する、というシステムであった。また予約確認メールには「予約システムの使い勝手はどうでしたか?」「その他何かあればご自由にご記入ください」といった感想や意見を求めるアンケートへのリンクを掲載することで、利用者からのフィードバックも受け取れるように工夫した。さらにサイト下部にはトラブルや質問、予約のキャンセルに対応するために「質問フォーム」も設置され、それらの質問には修学支援室が対応した。加えて、修学支援室には受け取りに来た学生がカードリーダーに学生証をかざすことで、学籍番号と受け取り時間が記録されるシステムも製作していただいたが、これを用いることで無人での受け取り確認も可能になった。


また本学では留学生も多く、すべての公式メールには英語と日本語が併記されている。この予約システムも当然、日本語と英語併記が必須であったが、その翻訳を国際戦略室に担当してもらうことで、国際化にも対応することができた。

しかし食料品の会場搬入や品出し、「ホッとライス」が入った段ボール箱などの仕分けや廃棄には、どうしても人手が必要であった。そこで筆者が発起人となり、以降の食料品支援をサポートするべく、筆者の所属する文化研究センターの若手教員である沖和砂、小暮克夫、蛭名正司、網谷祐一、そして筆者により、「学生支援ワーキンググループ」(以下、学生支援WG)が5月8日に結成され、以降、それらの仕事を担当することとなった。

The University of Aizu

Food receiving day reservation site

会津大学食料品受け取り日予約サイト



We now received food supports from many people as relief supplies to the University of Aizu.

支援食品をいただきました

We now received food supports from many people as relief supplies to the University of Aizu.

We decided to take an advance reservations on our website in order to avoid the 3C's (closed spaces, crowded places, cross-contact setting) as possible and provide the food supports smoothly.

Your cooperation is appreciated.

会津大学生への支援物資として多くの方々から寄付が蓄積しています。

三密を避けつわん人でも多くの方にスムーズに支援の食料品を受け取っていただくために、ウェブサイト上での事前予約を実施することになりました。

ご協力よろしくお願いたします。

Food distribution starts on May 25, and reservation starts on May 21.

The pick-up place and date of the foods are as follows.
 Location: "Keyski" restaurant on the second floor of the Student Hall
 Date: Weekday, 9:00 - 17:00

If you would like to receive the food support, please choose the available date and time on the "schedule" screen below, and make a reservation on the "Reservation Form" below.

Reservation rules

- You cannot make a reservation on a date and time when it already has fill another reservation.
- You can make a reservation for the next day until 15:00 the day before.
- You can not make reservations at the same day and previous days.
- Multiple reservations should not be made.
- The next reservation will be accepted one week after the previous reservation date.

Please fill in your university's email address in the email address [redacted] will receive a confirmation email (It may take some time for the mail to deliver. If you can't find the mail, please check the spam-mail box. too).

After receiving the confirmation email, please reload this reservation page to confirm that the reservation has been made.

When your reservation is confirmed, please come to pick up the foods by yourself at that designated.

If you have any problems, questions, or cancellations of reservations, please contact us at "Question Form" under the reservation form.

配布開始は5月25日、予約開始は5月21日です。

食料品の受け渡し場所と日時は以下の通りです。
 場所：学生ホール2階のレストラン「キーズキー」
 日時：平日の9:00～17:00

受け取りを希望される方は、以下の「schedule」画面で空いている日時を確認した上で、下記の「Reservation Form」で予約を申し込んでください。

予約のルール

- 予約は24時間受付、ただし当日は予約不可、翌日の予約申し込みは前日15時まで。
- 複数日の予約はできません。
- 次回の予約申し込みは、前回の予約日時の一週間後から可能です。

メールアドレス入力欄には大学のメールアドレスを記入してください ([redacted])、そちらに確認メールが届きます (メールが届くまで時間がかかることがあります。届かない場合は迷惑メールフォルダもご確認ください)。

メールを受信後、この予約ページをリロードし、予約が完了されていることをご確認ください。

予約が確認できたら、各自でその時間に取りにきてください。

トラブルや質問、予約のキャンセル等がありましたら、予約フォーム下の「Question Form」にてご連絡ください。

schedule

2020年 4月

日	月	火	水	木	金	土	日
1	2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31	

予約状況 (例):

09:00 reserved	09:30 reserved	10:00 reserved	10:30 reserved	11:00 reserved	11:30 reserved	12:00 reserved	12:30 reserved
09:45 reserved	10:15 reserved	10:45 reserved	11:15 reserved	11:45 reserved	12:15 reserved	12:45 reserved	13:15 reserved
09:00 reserved	09:30 reserved	10:00 reserved	10:30 reserved	11:00 reserved	11:30 reserved	12:00 reserved	12:30 reserved
09:45 reserved	10:15 reserved	10:45 reserved	11:15 reserved	11:45 reserved	12:15 reserved	12:45 reserved	13:15 reserved

Reservation Form 予約フォーム

*必須

Email Address [redacted] 学内メールアドレス *

回答を入力

Preferred Date 希望日 *

日付

年 / 月 / 日

Preferred Time 希望時刻 *

選択

送信

Question Form 質問フォーム

If you want to cancel your reservation, or you didn't receive a confirmation mail, or you have any troubles, please contact us from this form.
 予約キャンセルの希望、確認メールが届かない、その他トラブルなどありましたらこちらからご連絡をよろしくお願いたします。

*必須

Email address ([redacted]) 学内メールアドレス *

回答を入力

Please write the question here. 質問事項をごちらにご記入ください。 *

回答を入力

送信

図 25 修学支援室に復元していただいた、予約当時の予約システムのウェブサイト

職員及び学生支援 WG による食料品配布

「ホッとライス」の寄付以降も、さまざまな企業・団体から白米を中心とした食料品の寄付をいただき、順次搬入から配布までを行ったが、以下がその経緯と実施である。

5月18日、「ホッとライス」224箱（6,720食分）が到着、学生支援WGと学生課で搬入を実施（図26～28）。ホッとライスは段ボール一箱に30パック詰められており、災害時に用いる発熱剤と水も同封されていた。当初、パックをその日の予約人数分だけ、あらかじめ学生支援WGが段ボール箱から取り出して陳列しておくことも考えていたが、学生が一箱分を自分で空け、30パック分を持って帰ってもらうことにした。また空の段ボールや不要な発熱材も、学生自身に分別してもらって指定の台車においてもらうことにし、入室から退室までのルートに沿って立て看板に指示を書いておくことで、学生一人でも受け取りから片付けまでできるようにした。なお学生支援WGの仕事は毎日の配布終了後に、不要な段ボールを紐でくくってまとめ、指定された場所までもっていくことと、配布場所に出されたホッとライスの段ボール箱の減り具合を見て、バックヤードから適宜補充することであった。

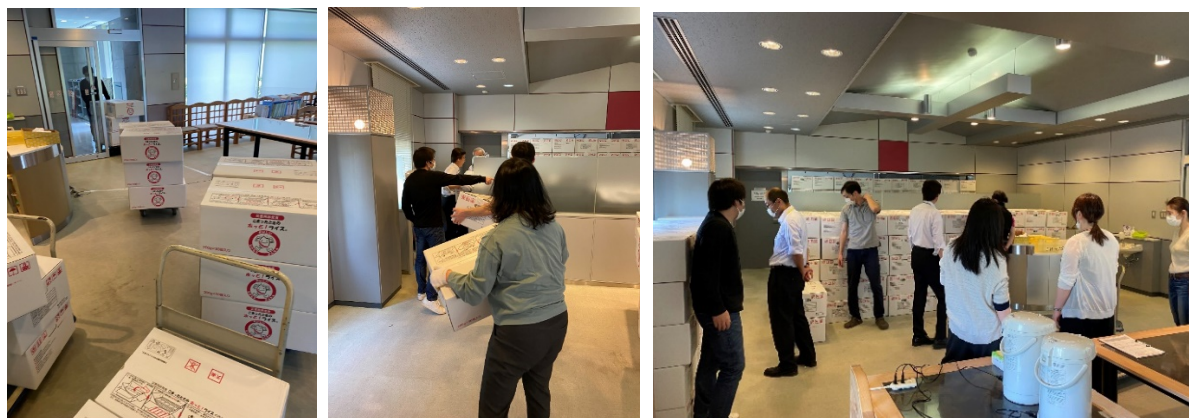


図 26 みんなで「ホッとライス」搬入



図 27 左：バックヤード 右：配布場所



図 28 箱の中身 お米、水、スプーン、発熱剤など

5月21日夕方、予約システム完成。5月22日朝、学生に予約開始の個別メールが届けられる。当初は夏までに配布が終了すれば御の字だと考えていたが、いざ予約が始まると予想以上のスピードで予約が殺到したため、在庫数を考慮し5月23日夕方に予約受付を停止。表3はその予約状況のデータであるが、予約は152件、最終の予約日時は5月23日の15時32分となっており、予約停止前にはすでに予約が止まっていたようであった。

表 3 予約データ

予約日	5月25日	26日	27日	28日	29日	6月1日	2日	3日	4日	5日	合計
予約人数	24	24	24	24	23	16	6	5	3	3	152

なお予約受付終了後にやり取りされたメールでは「(筆者注：予約の申し込みが) はい、すごい勢いで！システム開発していただいて本当に助かりました。これを人手ではさばけなかったですよね。」「まったくです！こんな勢いでメールや電話が来ていたら、パンクしていたし、自由に持って行くシステムだったら人だかりができていました。開発チームに感謝です。」と、修学支援室への感謝の言葉が飛び交っていた。

5月25日、配布開始(図29)。12時過ぎに筆者が見に行くと、段ボールの箱の中にあつた長い仕切りや底敷が乱雑に積まれていた。ためしにまとめてみると、仕切りの向きが異なったり絡まったりして非常に苦労した。そこで急遽、仕切りの向きと長さをそろえて積んでもらえるように、段ボールで囲いを作ったところ、まとめやすく置いてもらえるようになった(図30)。初日の片付けは筆者と沖和砂、学生課職員一名で17時から行い、30分ほどで終了した。以後の配布もこの調子で進み、毎日17時から学生支援WGと学生課職員2~3名で後片付けを行った(図31)。なお以降の食料品配布ではゴミはほとんどでなかったため、学生支援WGが毎日の品出しと後片付けを行ったのはこの「ホッとライス」配布の時のみとなった。

5月27日には会津よつば農業協同組合様から「いなわしろ天のつぶ」白米2kg入り500袋が寄付され、贈呈式の後、ホッとライス配布終了後に配布するために、バックヤードに安置した(図32)。6月5日、ホッとライス配布終了。残りの「ホッとライス」47箱は予備と短期大学の配布用とした。

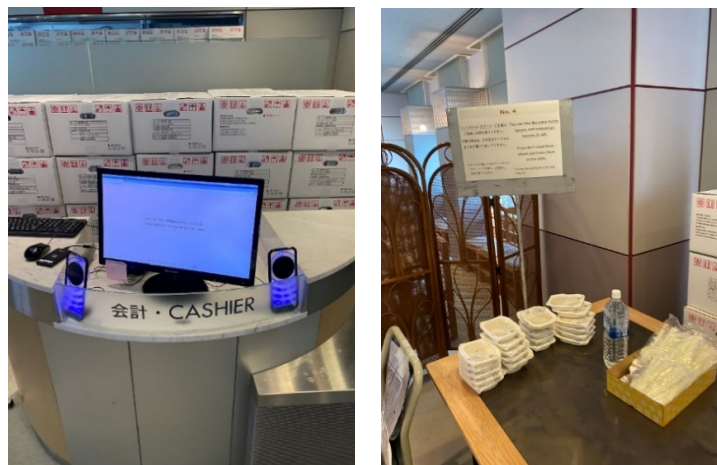


図 29 左：受け取り確認システム 右：看板に指示を書くことで無人化を達成



図 30 左：乱雑に積まれた仕切りと底敷 中央：段ボールで急遽、仕分けの囲いを作成
右：台車にビニール袋と段ボールの箱も直接積んでもらい、そのまま捨てられるように



図 31 一日の最後に、学生支援WGのメンバーで分担して廃棄



図 32 左・中央:「天のつぶ」は、ホッとライスと混ざらないようにひとまずバックヤードに安置
右: ホッとライス配布終了 残りは予備と短期大学部用に

6月11日、15時頃に学生支援WGと学生課職員で「いなわしろ天のつぶ」を擲に品出し。同日18時半頃に学内情報システムに「いなわしろ天のつぶ」の予約開始を掲載。なお時間がまだ早かったため、今回は学生へのメールは当日中に配信されたようである。また前回の予約殺到の教訓を踏まえ、今回は初めから予約受付の上限を設定した。6月14日、予約上限に達して受付終了。6月15日、「いなわしろ天のつぶ」を配布開始し、6月30日に配布完了(図33)。なお天のつぶは予め擲に品出しすることができ、ゴミも出ることがなかったため、この配布では学生支援WGによる毎日の品出しや後片付けは行っていない。

6月16日、東洋システム株式会社様より、アルファ米(五目ご飯とドライカレー)900食と500ml入りの水648本が寄付され、学生支援WGと職員で搬入してバックヤードに安置。7月2日、アルファ米の予約開始、上限100名。昼過ぎに予約上限に達する。同日には湯川米2kg入り60袋も寄付され、贈呈式の後、そのまま台車で職員のみで擲のバックヤードへ安置。10時より、学生支援WGと職員でアルファ米と水のセッティング(図34)。7月3日、アルファ米、配布開始(7月16日、配布完了)。なおこのアルファ米配布も特に後片付け、品出しは不要だったため、学生支援WGによる毎日の作業はなかった。

7月27日、湯川米60袋、そして前回の天のつぶの残り18袋の予約開始。ただし今回は学生支援緊急給付金を受けた日本人256名にのみメールを送信。予約上限は78人。7月28日、湯川米の配布開始(8月21日、配布終了)。なおこの湯川米等に関わる作業は職員のみで行われたが、この配布完了を以て、食料品支援はひとまず終了となった。

翌年2021年3月1日、会津地方労働組合総連合様、生活協同組合コープあいつ様から寄付していただいた白米3kg入り100袋、カップラーメン500個、各種レトルト食品等100食の配布が3月2日8時30分から開始されることが全学生にメールで通知された。3月2日、予約不要で先着100名に、一人につき食料品の詰め合わせ1袋、米3kg、カップ麺5個が学生課前のスペースにて配布されたが、当日12時頃までにはすべて配布が終了した。

以上が筆者が関わった食料品支援の概要である。



図 33 いなわしろ天のつぶ



図 34 アルファ米と水

おわりに

最後に、これらの取り組みをふりかえりつつ、本論を締めよう。本論で見てきたように、筆者は偶然、学生支援に関わることとなり、学内及び地域の皆様のお力添えのおかげで、なんとか無事に役目を果たすことが出来た。しかし大学が学生に食料品を配るといふ、この先例のない取り組みを実施するにあたり、常に不安を感じていたのもまた事実であった。しかしそのさいに支えになったのが、災害支援やボランティアに関する研究の事例であった。今回の学生支援において、それらの事例を参考にした例は枚挙にいとまがない。この時ほど、人文社会科学の知見が現場に役に立つと実感できたことはなかった。

さらに普段、地域イベントや観光地で見聞きしていた、人を楽しませ、かつ、現場の労力を最小限に抑えるという、無数のノウハウも随所で活かすことが出来た。これもまた「研究の社会的還元」を実感できた出来事であった。

本論もまた、学生支援、災害支援に取り組む方々にとって、そして研究の社会的還元チャレンジする研究者の方々にとっての参照事例となれば、望外の喜びである。

謝辞

本学学生に、多大なるご支援をいただいたすべての個人、団体、企業の皆様、そしてコロナ対応で多忙を極める中、貴重な時間と労力を割いていただいたすべての教職員の皆様に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

また寄付の公表を辞退されました個人、団体、企業の皆様の寄付内容や取り組みについては本論でご紹介できませんでしたが、本論で取り上げた支援同様、学生支援に活用させていただきましたこと、厚く御礼申し上げます。

参考文献・出典

会津大学公式ウェブサイト <https://www.u-aizu.ac.jp/>

会津若松市公式ホームページ <https://www.city.aizuwakamatsu.fukushima.jp/>

沖和砂・中澤謙、2021、「体育実技におけるオンライン講義と対面講義の学習効果比較」、『会津大学文化研究センター研究年報』第27号（2019）、pp. 5-10.

中澤謙・沖和砂、2021、「体育実技科目における授業の再設計過程～新型コロナウイルス感染症への対応～」、『会津大学文化研究センター研究年報』第27号（2019）、pp. 93-100.